

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 『明日への扉』と『有終の美』

自然に恵まれた教育環境のもと、確かな学力、豊かな心、社会性を身につけた生徒を育成するために、組織的な取り組みを行い、生徒の夢と志を実現できる、地域に信頼され誇りとされる学校をめざす！

- 『明日への扉』
- 1 生徒の一人ひとりに確かな学力と豊かな心、社会性を育成する。
  - 2 生徒の多様な可能性・ニーズに応える教育課程を編成するとともに、音楽専門コース等を充実し進路を実現する。
  - 3 きめ細かな指導により生徒一人ひとりの良さを引き出し、生命と人権を尊重した教育活動を展開する。
  - 4 地域環境を活かし、保護者・地域と共に歩み、組織的な教育活動を行う開かれた学校づくりを行う。
- 『有終の美』
- 5 閉校に向けた校内体制づくりと教育活動の充実を図るとともに、歴史に名を残すための記念事業・行事を企画・実施する。

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力と社会性の育成
  - (1) 生活習慣・学習習慣の形成の徹底をはかる。
    - ア 遅刻指導、頭髪・服装指導、授業規律指導等に関して組織的に取り組み、きめこまかな指導を行う。
    - ※一人あたりの遅刻回数を毎年2～3%ずつ削減し、平成29年度には10%減とする。
  - (2) 「わかる授業、充実した授業」をめざして、授業改善に組織的に取り組む。
    - ア 各教科における授業研究を推進し、授業改善に取り組む。
    - ※生徒による授業評価での授業満足度（「わかりやすく楽しい」）を毎年2～3%ずつ引き上げ、平成29年度には全科目で60%以上にする。
- 2 夢と志を持つ生徒の育成をめざし学校の特色づくりを推進
  - (1) 音楽専門コースの充実を計画的に行う。
    - ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用を図り、より専門的な知識・技能の習得を図る。
    - ※生徒による授業評価での授業満足度（「わかりやすく楽しい」）を全科目で80%を越えるようにする。
  - (2) 「夢チャレンジ！」を合言葉に、卒業時の進路未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導を行う。
    - ア 進路指導ノート等の活用を図り1年次より3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施する。
    - イ キャリアカウンセリング体制を充実し、一人ひとりの生徒が抱える進路の問題を解決できる組織的指導体制を作る。
    - ※卒業時の進路未定者を常に3名以下とし、最終年度には0とする。また毎年就職内定率100%を維持する。
  - (3) 中期計画推進費によって整備された視聴覚教室の活用を図る。
    - ア 音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。
    - イ キャリア教育をはじめ、学年、クラス、グループでの活動の場として活用し、生徒の自己実現をめざす活動の場として利用する。
    - ※年間を通しての視聴覚教室の利用率を高める。活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証する。
- 3 生徒理解の促進と教育相談体制の充実
  - (1) 多様な生徒の生活、生育、心の発達に伴う不安や悩み等を把握し適切に指導する。
    - ア スクールカウンセラーの活用や外部の諸機関とも連携し、教育相談機能の一層の充実を図る。
    - ※事例ごとに必要な対応ができていくかの検証を行う。
- 4 地域連携、校種間連携を強化し、開かれた学校づくりを推進
  - (1) 地域や地域の学校、施設との連携活動を促進し、地域への貢献度を高める。
    - ア 既存の連携活動を維持し、地域との連携活動の絆を深める。
    - イ 生徒・保護者への周知を図り、より多くの生徒の自主的参加を募る。
    - ※生徒総数は減少するが毎年5回以上の地域交流を実施し、すべての行事において参加者を確保する。
  - (2) 学校の取り組みを積極的に発信し、保護者や卒業生等の学校理解を促進する。
    - ア ホームページの充実や保護者向けメールマガジンなどの活用を行い、広報活動に努める。
    - ※ホームページの更新作業を毎学期3回以上行う。
    - ※保護者のメール登録者を常に80%以上とする。
- 5 閉校に向けた学校教育活動の充実
  - (1) 学校規模（縮小）に応じた教育活動の充実や活性化を図る。
    - ア 学年進行に応じた学校行事を工夫し、生徒の自主的かつ積極的な参加を促す。
    - イ 部活動の精選や運営方法の工夫を行い、生徒が参加しやすい体制をつくる。
    - ※生徒の学校行事への満足度を常に60%以上とする。
    - ※部活動への入部率を常に50%以上とする。
  - (2) 閉校に向けた記念事業・行事を企画、実施する。
    - ア 最終年度だけでなく年次計画で閉校に向けた記念事業・行事を計画し、学校の活性化につなげる。
    - イ 30周年記念事業として始めた国際交流事業を継続・充実させる。
    - ※毎年、記念行事・事業の企画、実施し、生徒の参加率や満足度を高める。（それぞれにおいて指標を定める）
    - ※海外派遣研修における生徒参加者を（最終年度を除き）常に15名以上とし、また参加生徒の満足度を100%とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■これまでの質問項目（生徒：50問 保護者：45問 教職員：83問）を大幅に削減した改訂版（各17問ずつ）での実施となった。</p> <p>▽高校に進学するまで日々通学することが難しい状態だった生徒も多く、以下の肯定率が高いことに安堵感がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「池田北高校に進学してよかった」（生徒肯定率 70.4%）</li> <li>・「池田北高校に進学させてよかった」（保護者肯定率 89%）</li> <li>・「学校に行くのが楽しい」（生徒肯定率 61.7%）</li> <li>・「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」（保護者肯定率 77.6%）</li> </ul> <p>▽思春期の子どもへの対応や要配慮・要支援の対応など、保護者にも不安や悩みが多い現状への教職員の対応に対して評価していただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」（保護者肯定率 89.2%）</li> </ul> <p>▽授業に関しては、今後も生徒の状況に応じた工夫を重ねていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業はわかりやすく楽しい」（生徒肯定率 49%）</li> </ul>	<p>○第1回（7月7日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度末の閉校が決定し寂しい限りではあるが、最後まで生徒を盛り上げ、活躍する生徒を育成してほしい。各立場で協力できることをしていきたい。</li> <li>・特色の音楽コースをいかし、OBバンドの結成などでOBを参加させ、力を借りるのも良いアイデアだと思う。</li> <li>・学校では多くの活動が行われ、生徒も積極的に取り組んでいることが多くの保護者に十分に伝わっていないのが残念だ。⇒学校HPやいけきた携帯メールの活用頻度をあげていく。</li> </ul> <p>○第2回（11月9日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生2クラスの授業見学を実施し、授業の明るさや楽しさ・教員の工夫や対話等において評価をしていただいた。</li> <li>・学校教育自己診断（1月14日実施予定）の改訂（案）については、どの委員からも異論はなく、寧ろ期待感が伝えられた。保護者への回収率アップにむけて配付方法の検討が提案されたことを受け、2学期末の保護者連絡として郵送をすることとした。</li> </ul> <p>○第3回（2月15日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断については、一度に多くの情報提供で細かい分析には至らないが、肯定率が上昇傾向にあることが明らかな項目が多く安心できる。</li> <li>・「明るく閉じる」の推進を応援したい。生徒のためにやろうと思うことをどんどんやってみることから始まると思う。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

## 府立池田北高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と社会性の育成	(1) 生活習慣・学習習慣の形成 ア 遅刻指導・授業規律に関する組織的な取り組み (2) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善 イ 教科等による授業研究・授業改善	(1) ア・従来の遅刻指導も強化しながら、考査前の遅刻指導強化週間での指導やカウンタウシステムを活用した指導も徹底し、相乗的効果をねらう。 ・授業に入る際の準備等の指導を徹底する。 (2) イ・年2回の公開授業週間等を利用して教科で授業研究に取り組む。 ・年2回の生徒による授業アンケートを行い、授業の状況、生徒の反応等を分析・把握し、それをもとに各教員が授業の改善を検討し、実施する。 ・外部研修の伝達研修を行い研修の充実を図る。	(1) ア・年間遅刻回数を2～3%削減 (H26 18.5回/人) (2) イ・生徒による授業評価で「授業がわかりやすく楽しい」の肯定意見を全体で55%以上 (H26 53.7%)	(1) ア 年間遅刻回数は全体で約25%減となった。しかし、同じ生徒が繰り返し指導を受けている状況に対する解決策を提示してあげられないことが課題となっている。(○) (H27 12.5/人) (2) イ 学校教育自己診断の様式変更の影響はわからないが、これまで同様「授業はわかりやすく楽しい」の肯定意見が全体で49%に留まった。保護者の「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定意見は全体で54%であった。(△)
2 学校の特色づくりを推進	(1) 音楽専門コースの充実 ア 高大連携等を強化して外部講師等の活用促進 イ 音楽専門コース発表や活動の場を確保 (2) 未定者ゼロをめざしたきめ細かい進路指導 ウ 3年間を見通したキャリア教育の計画的実施 エ キャリアカウンセリング体制の充実 オ インターンシップへの参加者増加 (3) 中期計画推進費による視聴覚教室の活用 カ 音楽専門コースの活性化やキャリア教育の場として活用促進	(1) ア・専門コースにおける専門性を高めるために、大阪音楽大学を中心に連携を強化し、外部講師の活用を図る。 イ・音楽専門コースの発表会をはじめ、部活動とも連携して多くの発表の場を確保することにより、生徒の優れた能力の開発の場とする。 (2) ウ・3年間の進路指導計画に沿って、キャリア教育支援事業を活用し、進路指導ノート、職業体験、体験談講演会、模擬授業などをとおして、望ましい職業観・勤労観を養う。 エ・就職希望者に対して、キャリアカウンセラーなどの専門家による就職指導や外部講師による面接指導をとおして企業が求める人材について理解させ、社会人としての自覚を持たせる。 オ・学校設定科目「チャレンジタイム」におけるインターンシップへの参加を勧める。 (3) カ・音楽専門コース生や吹奏楽部、弦楽部、コーラス部などの練習・発表の場として利用し、活動の活性化を図る。 ・学年、クラス、グループでの活動の場として生徒のキャリア教育に役立てる。 ・広報活動、地域との連携活動などにも広く活用する。	(1) ア・講師による講座に関するアンケートでの満足度100% (H26 100%) イ・発表会について生徒アンケートでの満足度100% (H26 100%) (2) ウ・卒業時の進路未定者を3人以下 (H26 0人) エ・就職内定率100% (H26 100%) ・キャリアカウンセラーや外部講師の活用回数 (H26 7回)、活用状況 オ・インターンシップへの参加者40人以上 (H26 42人、H25 26人) カ・年間の利用率と活動内容の充実度を内容やアンケートなどにより検証 (H26 37回)	(1) ア これまでの活動を継続することができ、生徒のニーズも満たし、満足度も100%であった。(○) ・文化庁「文化芸術により子どもの育成事業」ユーフォニウム公開講座2回 ・特別公開講座 声楽(1学期) 箏曲(3学期) イ これまで同様、音楽専門コースではホールでの発表会が開催でき、芸術発表会も3学年全体での行事とした。生徒にとって貴重な体験の場を与えることができたこと、満足度もほぼ100%となり閉校年度まで形態を継続していく。(○) (2) ウ 昨年度より就職希望者も倍増、配慮を要する生徒等もいる状況において、自ら進路決定を先送りした2名以外の進路未定者はゼロであった。(○) エ 12月末現在の就職内定率は97%である。今年度も府の「キャリア教育支援体制整備事業」の活用により就職支援コーディネータを配置することができたことや就職支援セミナーなど様々な支援体制の成果と言える。(○) オ インターンシップへの興味・関心を持つ生徒は多くいるが、実際の参加者は30人であった。(在籍数がH26及びH25の1割減という現状)(△) カ 利用状況 ・音楽コース関連(公開講座・特別講座) ・部活動演奏会関連(弦楽部・コーラス部) ・進路指導関連(分野別説明会・キャリア教育等) ・研修関連(教職員対象リスクマネジメント・パッケージ研修等のグループワークや発表) 利用回数は前年度並みであったが、教職員の研修ではグループワークとICT機器の活用に適した場所として充実した研修に役立った。(○)
3 閉校に向けた学校教育活動の充実	(1) 学校規模に応じた教育活動の充実 ア 行事の工夫 イ 部活動の体制づくり (2) 記念事業・行事の実施 ウ 事業・行事の計画・立案 エ 国際交流事業の充実	(1) ア・学年やクラス規模の変化に対応した行事の内容や実施方法の検討を行う。 イ・新入生に対する全員参加の体験入部のさらなる工夫や学年を超えて再入部への勧誘をすすめる。 (2) ウ・早期に記念事業委員会を立ち上げ、運営体制を確立し、本年度分の実施に着手する。 エ・海外派遣研修の見直しを行い、本年度実施分についての企画内容を決定し、参加者を募る。 ・3学年が在籍している今年度に、学校全体での国際交流体験の企画、実施をめざす。	(1) ア・体育祭・文化祭が「楽しかった」を70%以上 (H26 68%) イ・各学年の部活動入部率を全体で男女とも50%以上 (H26 男53.4%、女47.0%) (2) ウ・本年度の企画内容と実施状況 エ・企画内容と参加者15名以上、参加者の満足度100%の維持 (H26 15名参加、満足度100%)	(1) ア 体育祭と文化祭の学校行事に関して、「楽しかった」の割合は前年度並みであったが、今年度は従来通りの形態とした中でも、以前より要望のあった体育祭でのTシャツ(背面印刷あり)を実現させ生徒の意欲向上が見られた。(○) イ 入部率は40%強にしかならなかったが、少人数や合同チームでありながらも熱心に活動に取り組む生徒と温かくサポートする教員の姿が見られ、陸上競技部では近畿大会出場を果たすなどの輝かしい成果もあげた。(△) (2) ウ 「池北ファイナル」の定例開催、職員会議での情報共有など着実に、かつ前向きな検討が進んでいる。(○) エ 参加者は9名であったが、事前学習や全体での報告会においてチームワーク良く積極的に取り組む参加者の姿、また個々の成長が顕著に感じられたことが大きな成果であった。満足度が100%なのは言うまでもない。(○)